

資源循環・廃棄物研究分野(総合)

委員会からの主要意見
現状についての評価・質問等
○当初計画時に想定出来なかった震災対応が必要となり、多難な期間であったと思われるが、所員が全力で努力されたことが感じられる。ただ、最終的には持続可能な資源循環社会の実現に向けてのビジョンがあまり強く打ち出せていないように思われる。[事後]
○研究成果の具体的なアウトカムが見えにくい、また、環境省等の行政に委員等として貢献している点は評価できるものの、多くの科学的知見が具体的にどのように生かされたか見えにくい。[年度]
○原著論文が順調に出ていることは大いに評価できる。[年度]
今後への期待など
○資源循環や廃棄物に関するハードウェアの技術革新的な研究を着実に牽引していることは評価できる。社会環境システム分野との連携などを通じてより政策的な貢献ができることを期待する。[事後]
○環境研究基盤の整備における各種データベースの位置付けを再検討し、整備すべきデータベースの意義を明確にすることが望まれる。[事後]

主要意見に対する国環研の考え方
①震災対応への貢献を評価いただいた一方で、循環型社会に関する新たなビジョン提示への課題についてのご指摘は真摯に受け止めたい。循環型社会ビジョンの模索は改めて次期の課題とするが、持続可能性の観点からは、資源問題や気候変動問題などの長期的スパンでのリスク以外に、災害のような短期スパンでのリスク対応をどのように両立させていくかという視点も合わせて探究していきたい。
②当該分野研究では政策対応研究を重視しており、様々な場面、段階で成果が政策に反映されていると考えている。しかし、ご指摘のとおり、必ずしも政策的なアウトカムとのつながりを明確にできていない部分もあることは否めず、次期計画策定において十分に留意したい。
③ハードウェアの研究開発とイノベーションの方向性を示す社会環境システム分野との連携が必要と考えており、次期においては横断的な取り組みを進めることにより、一層の強固な連携を進めていきたいと考えている。
④各種データベースは、知的研究基盤としてのニーズを考慮し、まずは当方の関連研究の基盤として整備し、対外的な公開を図っている。対象とするデータベースの位置づけと意義を検討し、一層戦略的に整備推進を図りたいと考えている。